

平成 16 年度 NBRP-情報-運営委員会 議事概要

開催日時:2004年11月18日(木)13:30 - 16:00

開催場所:国立遺伝学研究所 系統生物研究センター 4階 会議室

参加委員:小林委員、深海委員、水澤委員、吉川委員、菊池委員、小原委員、城石委員、西村委員、菅原委員、山崎委員

オブザーバー:文部科学省研究振興局ライフサイエンス課 高橋耕輔
JST 井上聡子

事務局:国立遺伝学研究所管理部総務課共同研究係
(欠席委員:倉田委員)

【議事】

1. 「NBRP-情報-運営委員会設置の経緯とその主旨説明」について
NBRP-情報-運営委員会設置の経緯とその主旨説明について、山崎委員より資料1-1に基づき説明があった。
2. 「委員長の選出」について
国立遺伝学研究所梅澤共同研究係長より資料2に基づき、研究開発受託事業の実施に係る各種委員会設置要項 について説明があった。同委員会設置要項第4条第2項に基づき、国立遺伝学研究所小原所長事務取扱より 山崎委員が委員長として指名され、以後の議事については山崎委員長が議長として議事の進行を行うことが確認された。山崎委員から菊池委員を副委員長とする旨提案があり、承認された。
3. 「報告・連絡事項」について

1) 国立遺伝学研究所の活動報告

資料3に基づき山崎委員長から報告があった。各リソース機関からのアクセスログ集計に関する問題に対し、次のような指摘があった。

- ・ 数値がすべてではないが、情報の利用に関する評価も重要であることを、各リソース中核機関に理解してもらう必要がある。
- ・ リソース中核機関の報告や評価に、リソースの配布件数だけでなく、公開情報の利用状況も含めるとよいのではないか。
- ・ ナショナルバイオリソースプロジェクト推進委員会や文部科学省ライフサイエンス課からも公開情報の利用率に関する重要性について、リソース中核機

関に向けて発信して欲しい。

- ・ アクセスログの解析によってどのような情報が得られるのか、そのノウハウも含めて関係者に知ってもらおうとよいのではないか。
- ・ アクセス数が必ずしも研究資源の利用状況を反映しない場合もあるの で注意は必要である。

2) 独立行政法人科学技術振興機構(JST)の事業報告

資料4に基づき、オブザーバー井上様から報告があった。報告に対し、公開サーバーが実際のリソース機関とは別のところにあるが、情報更新やセキュリティの問題がないかという質問があった。

これに対し、以下の通りの回答が行われた。

病原微生物一般公開システムと酵母 DB は JST に設置した公開用のサーバー からインターネット上に公開している。公開サーバーの侵入、改ざん検知は、JST で一般的に行っているものに準ずる。データ更新は、リソース機関から公開するデータの提供を受け、サーバーに インポートしている。また、原データの管理はリソース機関で行っているが、大学のデータ管理は厳しくなってきたおり、公開データと 非公開データとの仕分けは十分に行われている。またデータベース 構築および公開においては、NBRP 病原微生物の運営委員会と密接に連携をとり行われている。

3) 大型類人猿情報ネットワーク(GAIN)の活動報告

パワーポイントの資料に基づき、吉川委員から説明があった。

4) 地球規模生物多様性情報機構(GBIF)の活動について

資料5-1、5-2に基づき、菅原委員から報告があった。

[page top](#)

4. 「協議事項」について

1) 第27回分子生物学会 NBRP パネル展示・シンポジウムへの参加 について

資料6に基づき、山崎委員長から説明があった。

2) 委員の追加について

山崎委員長から、農林水産省や経済産業省のリソースバンクの代表者を委員として加えたい旨提案があり、了承された。また国立環境研究所の関係者にも参画いただくのがよいのではないかと提案があり、了承された。この件

に関してはさらに提案があれば後日メールなどにて伺いたい旨、山崎委員長より依頼があった。

3) 今後の活動方針について

資料 3-1 に基づき、山崎委員長から説明があった。

特にリソースの統合検索システムを広く公開するという将来構想に関しては、理想は理解できるがリソースの質の保障が問題であり、実装は慎重にすべきであること、当面は NBRP リソース情報の発信を優先することなどが話し合われた。

5. 「その他」について

1) 厚生労働省 研究資源バンクの紹介

水澤委員より、資料7に基づき、説明があった。